

令和4（2022）年度 学校評価

教育目標 自立と社会参加を目指し、一人一人の個性や教育的ニーズに応じた教育により、社会の中で主体的に生きることができる健やかで心豊かな児童生徒を育成する。
 指導方針 「チームなとく」として、一人一人の実態を的確に把握し、愛情をもって根気強く指導する。
 目指す学校像 児童生徒がもてる力を高めて生き生きと活動できる学校
 生活目標 明るく つよく 美しく
 重点目標 ① 一人一人に応じた指導の充実 (教科等連携による系統性のある指導の実践) (ICTを活用した指導の実践)
 ② 安心・安全な学校環境の整備と危機管理体制の確立 (実践的な防災安全教育と感染症対策の徹底) (危機管理マニュアルの見直し、働き方改革の継続)
 ③ 保護者等及び地域との連携の推進 (積極的な情報発信の工夫) (適切な情報交換による共通理解)

評価基準 教員自己評価のa十分達成できた=3点 bほぼ達成できた=2点 cどちらかという達成できなかった=1点 d達成できなかった=0点として平均点を算出
 総合評価 A 十分達成できた:平均2.5以上 B ほぼ達成できた:平均1.5以上2.5未満 C 課題があり改善が必要:平均1.5未満

1 分掌部・各学部・委員会の目標及び評価

重点目標	担当部等	重点目標を達成するための目標 (評価項目)	評価の観点(具体策)	総合評価	成 果	課題と改善策
・人一人一人に ICT等 した 連携 の 活用 による 充実 の 実践 の 実践	小学部	・生活単元学習の遊びの活動において、集団活動のきまりや約束に触れながら、児童それぞれの発達段階に応じた遊びを経験できるような授業を展開する。	・生活科との関連を明確にした年間指導計画の作成ができたか。 ・各学年の学習内容が段階的に構成され、指導内容の系統性が図れたか。 ・実態差がある中でもそれぞれの児童が生き生きと活動できる学習を提供できたか。	B	・年間指導計画を見直し、目標を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力・人間性」の3観点に分けて設定したり、関連教科を明記する年間指導計画を作成したりしている。 ・各学年とも児童の実態に差はあるが、簡単なきまりや約束を丁寧に児童に理解させながら、児童の発達段階に応じた集団活動(ゲームや遊び)の授業を展開できた。児童の興味関心を引き出しながら活動を進めたことで意欲的に取り組む様子が見られた。	・学習指導要領の確認を通して各学年での指導内容が明確になったので、学習内容の系統性も図られてきている。年間指導計画をより具体的に計画した単元指導計画の中に明記しながら、さらに現在の学習内容が適切であるかを検証していく。 ・児童が学習に見通しをもち、楽しみながら自ら取り組むことができるような授業を実践するとともに、きまりや約束を意識しながら知識や技能を習得できるように授業の工夫を継続して行っていく。
	中学部	・校内研究に関連づけて「職業・家庭」等の授業内容について見直しを図るとともに、生徒の実態に合わせた、より効果的な授業実践を行う。	・昨年度の授業内容を見直し、年間計画や単元指導計画を学年間で話しあい、系統性を図ることができたか。 ・授業実践を通して、どの生徒も家庭生活の中で役割を意識して自分から働こう、働きかけようという意欲を育て一人一人に応じた指導を充実させることができたか。	A	・「職業・家庭」の年間計画を見直して、それぞれの学年でどの内容をどこまで行うべきかを話し合い、系統性を図ることができた。 ・授業実践を通して家庭生活の中でどれだけ役割を意識して手伝いを行っているか、家庭からもフィードバックしてもらった。中には、毎日の仕事として行っている生徒もおり、自分から働こうという意識が出てきている。重複障害学級においては、自分から働きかける意欲を育てるという点で生活単元学習などを中心に取り組み、良い成果を得ることができた。	・今年度の各学年の実施内容や生徒の学習の習得度の傾向を全体で共有し、3年間をかけて何度も学習したほうが良い内容や、学年によって振り分けたほうが良い内容を再度検討していく。さらに今年度の反省を受けて、見直すことも検討していく。 ・重複障害学級においては、今年度の成果を踏まえて、さらにいろいろな場面で意欲が高められるとよい。
	高等部	・教師一人一人が、それぞれの専門性を生かし、生徒一人一人に応じた指導を充実させる。	①教師一人一人が、自身の専門分野、得意分野を認識し、専門性を高める。 ②それぞれのキャリアに応じた目標を達成する。 <1段階> 自己理解を深め、自身が身に付けていきたい専門分野を見付ける。 <2段階> 自身の専門性を高め、指導に生かす。 <3段階> 専門的な知識やスキルを同僚に伝達するなど、組織全体の教育力向上を図る。	B	・教師一人一人が、自身の専門性について認識、再認識したり、今後身に付けていきたい専門性について考えたりすることができた。 ・各自の専門性や取組を一覧にし、職員間で共有できるようにした。	・それぞれの専門性を生かした指導ができたが、さらなる充実を図るとともに、専門性のスキルアップを目指す。 ・それぞれがもっている専門性について、職員間での情報共有は不十分だった。各自のもつ専門性を互いに認識し、専門性を生かした組織的な指導ができることを目指す。
	寮務部	・舎生一人一人の実態を的確に把握した上で、指導体制を検討し、家庭や学校との系統性を重視した指導、支援を行う。	・個別の教育支援計画、指導計画を互審会等を活用して複数の視点から検討する。作成した計画を指導場面で活用し、必要があれば変更や修正を加えることができたか。 ・タブレット端末用のICT機器を用いて舎生の実態に合った教材や資料を作成し、舎生一人一人が「できた」という達成感をもてる指導・支援が実践ができたか。	B	・全体での互審会の時間をとり、複数の視点で検討することができた。互審会はスクリーンを一枚準備して話すスタイルであったが、活発な意見が出て良かった。手だて等を見直し、変更することができた。支援計画、指導計画の提出前チェックでは、他の教員からのチェックが増えていることから、担当外の舎生の指導に関しても教員の関心が高まったと思われる。 ・グループ自立学習でのタブレット端末の使用率が高まった。必要な学習の際には使えるようにしたい。避難訓練や外出学習時に、昨年より使えるようになった。	・教員間で指導計画等について話し合うことで、子どもの実態がより見えやすくなるので、今後も継続していく。指導計画等の提出前チェックをする際、訂正者が記名することで、意図したことがより正確に伝わるので、記名を徹底する。 ・タブレット端末をグループ自立学習の場面でだけでなく、普段の学習(自転車の乗り方等や日常生活の指導)でも、もっと使っていく。校外への持ち出しも可能になったので、より多くの場面で使用していきたい。グループ自立学習の指導案や反省はいつでも活用できるように校務LAN内の「教材フォルダ」に記録したが、タブレット端末の活用例もそこに記録しておく。

(1) I C T 等 に 連 係 し た 活 動 の 実 践 の 実 践	教務部	・系統性のある指導(授業)の実践を支えるために、単元やテーマに沿った教材教具等の紹介や管理を行う。	・教科書(こくご☆)に焦点を当てた教材展を企画し、教材等を周知することができたか。 ・教材教具の共有化を目指して、教材の管理(単元ごとにまとめる等)や紹介をすることができたか。 ・学習指導部と連携して、「教材カード(仮称)」に、学習指導要領の各段階との関連(年間指導計画の位置づけ)を明記することができたか。	B	・教科書(こくご☆)に焦点を当てた教材を作成し、題材ごとにケースに入れて保管することができた。しかし、教材を紹介する教材展が掲示板を使っただけの実施になり全体への周知が難しかった。 ・題材ごとに「教材カード」を試作することができた。	・教科書を使った学習を充実させるため、系統的な学習を進めるために、教材の作成(の呼び掛け)・紹介・管理の活動を引き続き行う。 ・毎年テーマを決めて、長期休業中に「教材展」を実施して教材の紹介をする。 ・学習指導部と連携し、「教材カード」の内容を見直して、より使いやすいものにしていく。
	学習指導部	・一人一人に応じた指導の充実のため教員同士が学び合う機会の充実を図る。	・校内研究では、研究グループ内で指導についての視点や方法、どのように工夫して指導していくか等について話し合えるような場の提供や研究の道筋を提供することができたか。 ・互審会をグループで実施することにより、指導目標が児童生徒の実態に合っているか、手立ては適切か、などについて意見交換をし、その後の目標設定や評価の仕方に生かすことができるようになったか。 ・自立活動充実事業や人権研修などの研修を指導の一助となるような形で提供することができたか。	B	・校内研究では、研究の道筋や話し合いの機会を提供したり、夏休み中に動画研修を行ったりすることができた。 ・互審会をグループで実施し、読み合わせをすることができた。 ・やや課題は残ったが、自立活動充実事業や人権研修など実施することができた。	・校内研究はそれぞれの課題の2年目となるので、研究の成果を分かりやすくまとめていく。 ・個別の指導計画の充実のため、互審会で十分に意見の交換ができるよう個別の指導計画についての研修を行うとともにマニュアルの周知を図っていく。 ・自立活動指導充実事業では、事例研の持ち方など検討を重ね、機会を生かせるようにしていく。研修の機会を最大限に生かすためにも目的や内容を明確にしていく必要がある。
	特別活動部	・各種行事において、児童生徒一人一人が集団の一員として自分の役割を自覚し、自主的に活動に取り組むことができるようにする。	・児童生徒一人一人の実態に応じて、自主的に取り組むことができ、自分の役割を自覚できるような活動内容を設定することができたか。 ・新型コロナの感染状況に応じて、計画変更を見据えた柔軟な対応と、きめ細かな実施計画の作成と実践をすることができたか。	B	・各種大会や各学部の学校行事など、ほぼ計画どおりに実施することができ、児童生徒も見通しをもって準備をすることができた。 ・消毒や換気時間の確保、密を避けるなどの人数制限などできる限りの感染対策を取りながら実施計画を作成、実施をすることができた。	・全校集会をはじめ、各学部の行事の実施について、どうすれば実施できるかを念頭に、実施方法や感染対策を考えていく。
	進路指導部	・普段行っている指導が卒業後につながる意識(キャリア教育の視点)をもてるような働きかけをする。	・キャリア教育を意識できるような研修が実施できたか。 ・掲示板や回覧等を活用し、キャリア教育に関する必要な情報を発信することができたか。	B	・長期休業中や放課後等を利用してキャリア教育に関する研修を実施することができた。研修の場以外での周知の方法について検討する。 ・掲示板やMicrosoft Teams、回覧等を活用し、新規施設の情報や保護者等に進路先からのアンケートの結果等を周知することができた。周知する内容については、今後検討する。	・希望者を対象とした研修のため、キャリア教育を正しく理解してもらうために引き続き研修等を実施するとともに、研修時以外の周知の方法として資料等を配付したい。 ・提供する情報を全体的な内容と、ある程度、的を絞った(先生方のニーズに応じた)内容の2本立てにすることで、より専門的な内容を網羅したい。

<p>(2) 安心・安全な実践的な学校環境の整備と危機管理の見直し</p> <p>・安全な実践的な学校環境の整備と危機管理の見直し</p> <p>・安全管理体制の改革の徹底の継続</p>	<p>訪問教育学級</p>	<p>・災害時の対応について個別に確認した情報を基に、各関係機関と連携を図りつつ個別の防災計画を整備する。</p>	<p>・災害時の対応についてまとめた個別の災害時対応計画について、それぞれに作成することができたか。</p> <p>・なす療育園と連携し、災害時の対応等で、学校が関わることのできる役割を詳細に確認し、整備することができたか。</p>	B	<p>・情報部により一斉メールによる安否確認システムが構築され、訪問教育学級においても学校の役割が明確となった。また、災害時の電源確保のための個別の訓練参加や、各関係機関との情報共有及び連携体制の確認機会を得たことで、個別の災害時対応計画の作成も進んでいる。</p> <p>・なす療育園との災害訓練の連携については、コロナ禍で授業時の訓練参加を見送られていることから進んでおらず、入所者の保護者等に災害時の連絡体制や不安感などについて意見を聞き、現状を把握するにとどまっている。</p>	<p>・今後は集約した情報を各関係機関にどのようにつないでいくか、具体的な情報発信システムの構築につなげる必要がある。引き続き情報部を中心とした学校組織全体と連携を図りながら防災安全教育の充実につなげていく。</p> <p>・授業時の参加が再開された折には、各訓練の趣旨、避難経路、学校の役割等を確認した上で参加し、防災意識や対応策を共有する。また、保護者等が抱える不安感などの解消に向け、なす療育園と連携を図りながら情報共有に努める。</p>
	<p>情報部</p>	<p>・ICTを活用した校内の連絡・共有体制を整備し、情報セキュリティに配慮しながら円滑に校務処理を遂行できる環境を構築する。</p>	<p>・Microsoft Teamsやグループウェア「School Ware」を活用し、職員間の連絡やデータの共有を推進することができたか。</p> <p>・統合型校務支援システムを活用し、児童生徒の学籍をはじめとする各種情報の一元管理を推進することができたか。</p> <p>・一斉メール配信、Microsoft Formsによるアンケート等の環境整備を通して、校内外との連絡・連携を適切かつ迅速に行うことができたか。</p>	A	<p>・学校日誌、研修・会議資料の共有や職員間の連絡で幅広くMicrosoft Teamsやグループウェア「School Ware」の活用が見られた。事務部との連携や職員必携の整備など新たな取組も進行中である。</p> <p>・県の方針や推進状況に応じて、統合型校務支援システムへの情報の入力や指導要録作成に向けての準備を進めることができた。</p> <p>・一斉メールを用いた配付物代替やMicrosoft Formsによるアンケートなどが浸透し、紙類の削減とスムーズな運用が図られた。遅刻・欠席確認や緊急時安否・引き渡し確認などの連絡システムの整備を通して、より充実した連絡・連携の体制が構築できた。</p>	<p>・PCスペックやネットワーク環境等を要因とする動作の不備に対応して、代替手段の提供など、業務継続のための体制を整備する。情報セキュリティに配慮しつつ、業務の効率化につながる取組を検討していきたい。</p> <p>・県の方針や推進状況を注視して迅速に対応できるようにするとともに、教務部、学習指導部等と業務内容の棲み分けや協力体制を整備し、十分連携して業務に当たる。</p> <p>・一斉メールを用いた配付物代替やMicrosoft Formsの操作方法が分かりにくいという意見も出ているので、データ保存フォルダやマニュアルの見直しを進め、より利用しやすい環境整備を進めていく。連絡システムについては、関係各所との連携を図り、円滑な運用と改善に努める。</p>
	<p>生徒指導部</p>	<p>・危機管理体制の確立のため、防災関係マニュアルの見直しを図る。</p>	<p>・全職員が把握しやすいようマニュアルを整理し、各々が自分の役割を確認し、有事の際に対応できるよう備えることができたか。</p>	B	<p>・危機管理マニュアルの整理を行い、研修や掲示板、Microsoft Teamsを通して周知した。また、児童生徒の緊急時安否確認や緊急時引き渡し確認のマニュアルでは、Microsoft Formsを活用するなどの改訂を図り、より有事に対応できるよう備えた。</p>	<p>・掲示板等で危機管理マニュアル等の周知を行ったが、教職員がどの程度、危機管理マニュアルを確認し、内容を熟知しているか検証する必要がある。また、教職員の対応力を高めるために、引き続き危機管理マニュアルを用いた研修等を行い、学校安全に努める。</p>
	<p>健康指導部</p>	<p>・児童生徒が安心・安全に学校生活を送ることができるよう、安全で清潔な学校環境を維持する。</p>	<p>・月1回の安全点検、月2回の職員清掃の中で、担当箇所の安全確認、清潔の保持を徹底することができたか。</p> <p>・自分の担当箇所に責任をもち、点検日や清掃日以外にも気になることがあった際に対応できたか。</p> <p>・自分の担当箇所以外においても、気付いたことを速やかに報告するなど対応することができたか。</p>	B	<p>・担当者の固定や安全点検、清掃の定期実施により、年間を通して目標は概ね達成できた。</p> <p>・aよりbの割合が多いことについては、三つの評価の観点の中の一つ「自分の担当箇所以外においても、気付いたことを速やかに報告するなど対応することができたか。」が、十分ではなかったと考えられる。</p>	<p>・当たり前のことを継続的に実施していくことの重要性を計画作成時に周知する。</p> <p>・担当者だけでなく、担当者以外が通るかなどして「(破損等安全面の不安などに)気付いた」などの“複数のチェック”を生かせるように、「自分の担当箇所以外・・・」の部分を活用できるように、方法を過度にならないように検討し、共有できるようにしたい。</p>
	<p>対い策委員会</p>	<p>・いじめ防止対策を適切に実践し、児童生徒が安心・安全に通学できる環境づくりに努める。</p>	<p>・いじめに関する記録や情報を校内で共有し、いじめ防止への意識を高め、早期発見、早期対応につなげることができたか。</p>	B	<p>・いじめ情報共有シートを活用し、いじめ発生事案について校内で情報共有を図った。また、「いじめレベル0」の視点に立ち、積極的にいじめを認知するなど、早期発見、早期対応につなげることができた。</p>	<p>・いじめの早期発見、早期対応に関する教職員の意識を高めるために、今後とも定期的にいじめ防止に係る周知、研修等を実施していく必要がある。また、いじめ発生時の報告・連絡・相談が円滑に行われるように、連絡体制についても周知していく。</p>
	<p>推進委員会</p>	<p>・働き方改革を継続して行い、児童・生徒への指導に充てる時間を増加することができる。</p>	<p>・本校の3年間の取組を踏襲し、職員が時間を意識した働き方をすることができたか。</p> <p>・チームとして職務に取り組むことで、長時間勤務者を減らすことを意識することができたか。</p>	B	<p>・月45時間以上の時間外勤務について、年間を通して理由の集計を行い、多忙の原因を探った。集計結果を学部主任や校務分掌部長に伝え、部内の時間外勤務について把握してもらうとともに、部のマネジメントの参考としてもらうことで勤務時間の平準化を図った。</p>	<p>・特定の業務や個人に時間外勤務が集中していることが把握できた。主事や部長のマネジメントだけでは改善が難しかった部分については、今後、組織のあり方について検討したい。また、どの業務にも繁忙期があるため、個人が行う業務の繁忙期が重ならないように、職員が工夫できるよう年度初めの周知にも取り組みたい。</p>

(3) 適積 ・・ ・保護者等 ・積極的な ・情報及 ・交報地 ・域との ・信の ・工の ・共連 ・夫携 ・通の ・理推 ・解進	地域支援部	・地域への情報発信、関係諸機関との適切な情報交換により、本校についての理解や地域との連携を深める。	・地域だよりやHP、リーフレット等で適切に情報発信することができたか。 ・市町からの要請に応じた情報交換や巡回相談等の中で、本校の実践について伝え、共通理解することができたか。 ・地域支援部の活動内容について、掲示板や地域だより等を通じて校内や地域に伝えることができたか。	B	・地域だよりやホームページなどで適宜情報を発信することができた。 ・幼保小中高への巡回相談や那須町げんきこ教室の支援協力などにおいて、本校での実践や特別支援の視点から気付いたことを必要に応じて伝えることができた。 ・地域支援部の活動内容については、センター的機能充実事業に関する情報を掲示板や地域だよりで伝えた。	・地域支援部の活動内容については、センター的機能充実事業について取り上げたが、その他に知ってほしい活動内容やそれらを周知するための効果的な方法について、部内で相談し、分かりやすく伝えていく。
	渉外部	・専門委員会の基本方針を整え、保護者等と連携を図りながら活動する。	・委員会の活動内容や会員の事情に配慮し、委員会のメンバー決めを行うことができたか。 ・コロナ禍でもできる活動や方法を考え、実施することができたか。 ・委員会ごとに活動内容、役割分担などを明確にすることができたか。 ・業務スケジュール(活動スケジュール)を立て、計画的に業務を遂行することができたか。	B	・活動内容や方法を工夫したことで、各委員会の活動を実施することができた。 ・専門委員会の活動内容や人数の振り分け方、役員決めの方法等、改善点を明確にすることができた。	・保護者等に文書を作成してもらった場合、加筆・訂正ができるようデータで提出してもらった。また、加筆・訂正をすることを保護者等にあらかじめ伝えておく。 ・今年度の反省を踏まえ、次年度のPTA専門委員会活動に生かしていく。

<学校関係者評価>

- ・ハード面、ソフト面ともにしっかりと評価され、課題が抽出されていると思う。今後、様々な状況下でも学校運営を継続していくために、より一層の充実を望む。
- ・新型コロナウイルス感染症による活動や指導の変化について十分に分析してほしい。中止になっていた行事等を今後どのように構築していくのか検討が必要である。
- ・新型コロナウイルス感染症により、保護者と地域の連携が切れてしまった。今後どのようにしていくかがPTAに課せられた課題だと考える。
- ・一斉メールで学校の情報を提供するなどICT活用を進めていくとよい。しかし、情報機器の利用に慣れない保護者等もいるため、丁寧な対応が必要である。
- ・大山公民館の展示会や東武宇都宮百貨店大田原店での作品展などにより、市民に学校のアピールができたと感じる。もっと地域の方々に那須特別支援学校を知ってもらい、理解してもらえるとよい。

<評価結果に基づく今後の改善方策等>

- ① 一人一人に応じた指導の充実
 - ・教科等の連携を図り、より系統性のある学習を進めるために、教科書の活用や教材の作成、授業内容の工夫に取り組んでいく。
 - ・新型コロナウイルス感染症対応により変更して実施した学習や行事についての見直し、検討を進めていく。
- ② 安心・安全な学校環境の整備と危機管理体制の確立
 - ・危機管理マニュアルを用いて実践に即した職員研修を行い、児童生徒を危機から守るための対応力を高めていく。
 - ・定期的に安全点検を実施し、児童生徒が安心して学習できる環境を整えていく。
- ③ 保護者等及び地域との連携の推進
 - ・外部機関との連携を積極的に図るとともに、保護者等や地域に対して学校の学習活動の様子や取組を各種だよりやHPを通して積極的に情報発信していく。

学校評価を通して、分掌部、各学部、委員会それぞれに実行、評価、改善がなされた。得られた評価や、成果が表れてきたものを広く啓発し、更によりよい教育活動に向けて生かしていく。